

様 腸内フローラ検査結果（門レベル分類）

検体受領日：2020年7月31日

検査結果報告日：2020年8月21日

F/B比*

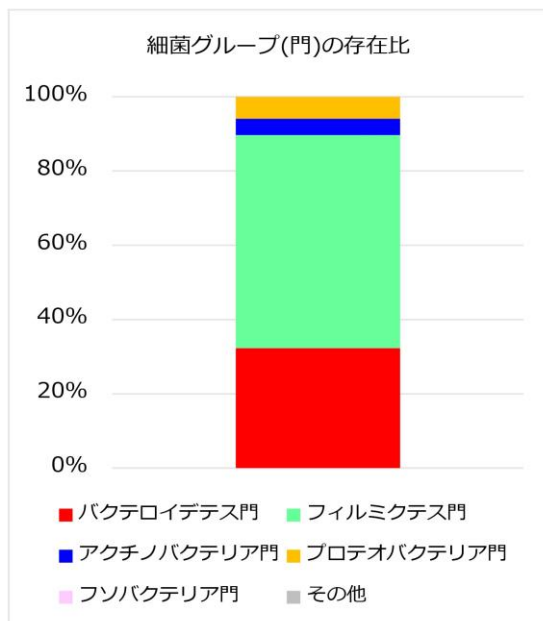
1.78

=

$$\frac{\text{フィルミクテス門の存在比(F)}}{\text{バクテロイデテス門の存在比(B)}}$$

* F/B比が 2 より高い数値の場合は肥満になりやすい傾向にあると考えられます。

細菌グループ(門)	性質	存在比(%)
バクテロイデテス門	ヒトの腸内に多く存在する腸内細菌叢の主要な構成菌であり、腸内の免疫系に重要な働きをしていると考えられている菌や肥満抑制に関与していると考えられている菌などが含まれます。	32
フィルミクテス門	善玉菌の乳酸菌のほか、悪玉菌であるレンサ球菌、ウェルシュ菌（糞便の悪臭に関与）等も含まれており、また肥満促進に関与していると考えられている菌も含まれています。	57
アクチノバクテリア門	様々な形状の細菌群や抗生物質をはじめとする様々な生理活性物質を産生する放線菌等を含むグループ。善玉菌として有名なビフィズス菌もこのグループに含まれています。	4.4
プロテオバクテリア門	腸内寄生菌であり食中毒の原因菌であるカンピロバクターや、胃潰瘍や胃癌などの原因菌である胃定着性のピロリ菌、最も有名な大腸菌など、悪玉菌が多く含まれています。	5.9
フソバクテリア門	大腸癌の発症リスクの指標として知られているフソバクテリウム属の細菌など、病原性を示す細菌群を多く含んでいます。	0.0
その他	シネルギステス門、レンティスファエラ門、ウェルコミクロビウム門、テネリクテス門、プランクトミクテス門などが含まれます。	0.03



検査結果

- ① 肥満の指標と考えられているF/B比は2より低く、肥満になる可能性は比較的低いと思われます。
- ② 善玉菌を含むアクチノバクテリア門の細菌類は、ある程度の割合を占めていると思われます。
- ③ 病原性を示す細菌群を含むフソバクテリア門の比率が極めて低く(ほぼ0)、全体的な腸内環境は安定しているようです。

用語説明

存在比：検体から検出された細菌全体(100%)に対する各細菌グループ(門)の割合(%)。疫学的調査の途中にあり一般性のある基準値は定められていません。

F/B比：一般性のある基準値は知られていませんが、肥満型の人では高い傾向があります。日常生活において変動しやすい値ですが、2を超える場合は肥満に要注意です(弊社基準)。

様 腸内フローラ検査結果 (属レベル分類) 検体受領日: 2020年7月31日 検査結果報告日: 2020年8月21日

主な細菌 (属)			
学名(和名)	リード数	存在比(%)	特徴
<i>Prevotella</i> (プレボテラ)	21227	28.17	腸内常在菌であるが日和見菌として扱われることが多い。
<i>Dorea</i> (ドレア)	4313	5.72	多発性硬化症(慢性神経疾患)の患者に多くみられる。
<i>Collinsella</i> (コリンセラ)	3263	4.33	ヒト腸内常在菌。
<i>Ruminococcus</i> (ルミノコッカス)	2999	3.98	セルロース分解能力を持ち、植物の繊維を分解して動物が利用できる形に変える。
<i>Bacteroides</i> (バクテロイデス)	2874	3.81	腸管免疫系において免疫活性化作用を有する。
<i>Blautia</i> (ブラウチア)	2254	2.99	種々の疾患の患者腸内で減少しており、感染症の報告がなく有用菌のひとつと考えられている。
<i>Faecalibacterium</i> (フィーカリバクテリウム)	1224	1.62	酪酸を産生し、健康長寿に関与する菌として「長寿菌」と呼ばれている善玉菌。

その他の細菌 (属)			用語説明	
学名(和名)	リード数	存在比(%)		
<i>Phascolarctobacterium</i> (ファスコラルクトバクテリウム)	5248	6.97	<p>属: 生物の分類学的階級の1つ。上位から界、門、綱、目、科、属、種と分けられている。 例、動物[界]脊索動物[門]哺乳[綱]サル[目]ヒト[科]ヒト(ホモ)[属]ヒト(サピエンス)[種]</p> <p>学名: 生物学の手続きに基づき、世界共通で生物の種および分類に付けられる名称。 ラテン語で表記され字体はイタリックとするのが一般的。ここでは「属」レベルで評価しているため、属名のみが表記されている。細菌「種」の学名の場合は「属名+ 種形容語」で構成される。この表し方を二名法といい「分類学の父」と呼ばれるカール・フォン・リンネによって体系化された。</p> <p>リード数: 菌叢解析において検出したその菌種の16SrRNA遺伝子配列の数(存在量の目安となる) 菌叢とは一定範囲内に存在する様々な細菌種を指す(植物の場合がフローラという)。 16SrRNA遺伝子配列は、細菌種を同定するために用いるその菌種に特徴的なDNA塩基配列。</p> <p>存在比: 判定不能を含めたリード数の合計(総数)に対する各細菌(属)のリード数の割合(%)</p>	
<i>Coprococcus</i> (コプロコッカス)	1643	2.18		
<i>Eubacterium</i> (ユウバクテリウム)	1455	1.93		
<i>Sutterella</i> (サテセラ)	1446	1.92		
<i>Bilophila</i> (ピロフィラ)	1177	1.56		
<i>Oscillospira</i> (オシロスピラ)	951	1.26		
<i>Megamonas</i> (メガモナス)	732	0.97		
<i>Roseburia</i> (ロゼブリア)	666	0.88		
<i>Streptococcus</i> (ストレプトコッカス)	410	0.54		
<i>Lachnospira</i> (ラクノスピラ)	220	0.29		
<i>Desulfovibrio</i> (デスルフォビリオ)	182	0.24		
<i>Anaerostipes</i> (アナエロステイペス)	154	0.20		
<i>Parabacteroides</i> (パラバクテロイデス)	146	0.19		
<i>Exiguobacterium</i> (エクシグノバクテリウム)	64	0.09		
<i>Serratia</i> (セラチア)	39	0.05		
上記以外の少数細菌(属)群	161	0.21		
判定不能	22503	29.87		
総数=	86987	100		